



「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業 (愛称:咲く南花台わくわくプロジェクト)

7

エールボーもみんなに
そしてクリーンに

11

住み続けられる
まちづくりを

DATA

■主な連携先・メンバー

河内長野市／大阪府／独立行政法人都市再生機構西日本支社／地域住民／
一般社団法人カンデ／関西大学建築環境デザイン研究室 他

■活動地域

大阪府河内長野市南花台・石仏地域

■活動期間

2014年度～継続中

■活動資金

河内長野市受託研究費

活動の目的

人口バランスが良く多世代が持続的に暮らせるまちへ再編すること



連携にいたる経緯

人口減少、高齢化率の増大という課題を抱えた南花台地域は、関西大学団地再編プロジェクトでの取組を契機に、大阪府市医療戦略会議の提言のひとつ「スマートエイジング・シティ」のモデル団地として位置づけられ、大学連携地域再編プロジェクトとして開始された。



活動内容

本プロジェクトは、365日オープンな地域コミュニティ拠点「コノミヤテラス」を活動拠点とし、行政・事業者・民間・住民・大学等が協働し、人口バランスが良く多世代が持続的に暮らせるまちづくりとして様々な取組を提案・実践してきた。それにより、住民協働のまちづくり再編意識が向上し、連鎖的に多様な取組みの創出に繋がっている。特に、住民が日常生活の中で主役となる活動として、多世代コミュニティの創出、健康意識の増進・子育て支援・生活支援等の助け合いの仕組み構築、まちのHP開設、商店会の復活、廃校小学校の看護専門学校への再編・地域拠点化、未来予想図づくりを経た地域住民合意形成などを実現してきた。そして新たな展開として、UR団地集約事業、新たな機能誘致、UR団地継続区域のリニューアル、地域新モビリティ(南花台モビリティ「クルクル」)実装実験の開始等、協働主体がそれぞれの強みを活かした多岐にわたる活動へと広がりを見せている。



活動の成果

- 1 多世代コミュニティ創出による新たな地域内活動に対する住民意識の向上
- 2 多様な協働主体の連鎖的な活動のきっかけづくり
- 3 「まずやってみる」「やりながら考える」というまちづくり活動精神の共有

今後の課題・目標

- 1 住民主体の活動の自律化
- 2 地域新モビリティ(南花台モビリティ「クルクル」)の実装化
- 3 地域内屋外空間の再編に向けた取り組みの実施

教員紹介



■環境都市工学部 教授

江川 直樹
Naoki Egawa

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学院修士課程修了。77年株式会社現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

協働担当者紹介



■一般社団法人カンデ

関谷 大志朗
Taishiro Sekiya

1990年熊本県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。(建築環境デザイン研究室)
卒業後は大学や行政、地域住民など様々な団体との協働による地域再生活動に取り組んでおり、現在は大阪府河内長野市南花台を主たるフィールドとし、地域再生・団地再編に取り組む。